



答辞(要約)

春の気配が日ごとに色濃くなり、東風に季節の移ろいを感じる今日、私たち百二十二年は、諫早高等学校附属中学校を卒業いたします。三年前、まだ幼さの残る私たちを迎えてくれた校舎の景色は、今も鮮やかに心に残っています。

新しい制服、少し大きく感じた通学カバン、母のお下がりの腕時計を頼りに始まった学校生活は、驚きと発見に満ちた日々でした。入学当初は、迷路のような校舎に戸惑いながら移動教室に向かったことや、眠気と必死に戦った七時間授業、放課後に交わした他愛ない会話の数々。そのすべてが、今ではかけがえない思い出です。

二年生では、憧れていた「先輩」としての責任を意識しながら、部活動に力を注ぎました。書道パフォーマンスでは、仲間と共に自信と勇気を与え、日々の学校生活を豊かなものにしていただきました。

体育大会では環境の変化に戸惑う私たちを先頭に立って導いてくださり、合唱コンクールでは迫力と調和に満ちた歌声で会場を魅了し、その真摯な姿勢から努力を積み重ねる尊さを深く学びました。部活動においても、仲間として、また良き手本として向き合ってくださいました。後輩である私たちが前へ進む大きな力となりました。先輩方が示してくださいました姿勢は、単なる模範にとどまらず、私たちに「こうありたい」という未来像を与えてくださいました。

送辞(要約)

在校生を代表し、卒業生の皆様にご挨拶申し上げます。皆様は三年間の学校生活において文武両道を実践され、いかなる困難に対しても前向きに挑み続けてこられた姿は、後輩である私たちにとって常に学びと励ましの源でありました。日頃、廊下ですれ違う際にかけてくださった温かい言葉や、行事や部活動で示された揺るぎない姿勢は、私

と創り上げる喜びと、終わりが近づくと寂しさを同時に味わい、部活動が与えてくれる経験の大きさを実感しました。職場体験では、社会の厳しさや働くことの意味を知り、毎日働く家族への感謝が芽生えました。壱岐での宿泊学習では、離島の自然と文化に触れ、仲間との共同生活を通して多くを学びました。そして三年生で迎えた修学旅行では、班別行動の計画に頭を悩ませ、慣れない地で右往左往しながらも、互いに支え合う絆の深まりを感じました。夜、興奮で眠れず小声で語り合った時間さえ、今では宝物です。合唱コンクールでは、仲間の思いが歌声に乗って一つになり、努力が報われた瞬間を味わいました。「青春・Solar of us」。今年度の生徒会スローガンに込められた通り、私たちの個性が附属中を彩り、一つの「青春」という作品を完成させました。

在校生代表

伊藤 菜の花

卒業生代表 水田 詩麻

頑張りました

一面にも載せたように、卒業式前日は在校生が頑張りました。感染症の恐れも薄れて、自分たちの可能性に思い切りチャレンジすることができ環境に戻ってきました。

して、温かく迎えます。

この1年



みんなで植えた花も咲き出しました